2007年9月3日

淀川水系流域委員会 様

宇治・世界遺産を守る会
藪田秀雄

淀川水系流域委員会の審議について

1、国土交通省近畿地方整備局は、8月28日、淀川水系河川整備計画原案を発表しました。委員会に要請したいことは、まともな原案を出させてから、審議に入ってもらいたいということです。

宇治川に関していうならば、この4～5年間の流域委員会の審議や地域住民、市、観光協会・商工会議所などの意見をふまえず、説明責任を果たさず、結論だけを押し付けるもので地域を馬鹿にしているのかと怒りを感じます。

天ヶ瀬ダム再開発は既存の施設の活用を検討するために調査を行っています。その調査検討を引き伸ばし、時間稼ぎをし、流域委員会に結果を報告もせずに、計画当初のトンネル方式を打ち出しています。

また二つの世界遺産と宇治川が一体となった宇治のシンボル景観である塔の島地区の河道整備は、百億円近い税金を投入して天ヶ瀬ダム再開発関連工事を行い、狭い河道をわざわざ埋め立て、流下能力を低下させ、宇治川の環境と景観を破壊してきました。この反省の上にならなくてはじめて次の検討が可能だと思います。

ところが原案の62ページの図4. 4. 3-3「塔の島地区河道整備」で塔の島地区河道整備・河道掘削は、一部完了したと示しています。これはこれまでに提示されたものと異なり、委員会や地元も知らないうちに河道掘削工事をやったのか、それは信義に反すると考えます。

そして怒りに油を注ぐものが、図4. 3. 3-4「河床掘削により河積を確保 瀬田川河道掘削横断図」です。宇治川塔の島地区の河道掘削であるにもかかわらず、瀬田川と記しています。河川の名前をまちがえる。あってはならないことです。これは河川管理者においていかにさまざまな検討が行われているか、また緊張感を欠いた状態にあるかということを示しています。

河川名を間違えるようなものは原案足り得ないと考えます。撤回し、再提出させるべきです。

2、第2の要請は、宇治川の河川整備について集中的に十分に審議して欲しいということです。残念ながら第2次委員会では、河川管理者の調査・検討報告、方針提示の引き伸ばしでほとんど検討・審議できていません。宇治川をよく知り、宇治川の意見を代表する宇治地域の代表は第3次委員に任命されませんでした。宇治川の解決なくして琵琶湖・瀬田川から淀川への水系の解決はありません。第3次委員会では、地域の意見を聴き、河川管理者に説明責任を果たさせ、しっかり審議していただきたい。

3、第58回委員会で河川管理者が流域委員会に対しておこなった「説明責任を果たす」「見切り発車はしない」の約束事項を毅然として守らせてもらいたい。

以上